

無所属の林政行です。

道端委員長はじめ議会運営委員の皆様、発言の機会をいただき、ありがとうございます。

本日、議場にてオリヒメの使用を認めていただきたく、こちらに来させていただきました。

オリヒメは、子育てや単身赴任、入院など距離や身体的問題によって行きたいところに行けない人のもう一つの身体、分身ロボットです。

本人に代わって挙手したり、文章を読み上げたりする機能があり、インターネットによる遠隔操作のほか、手足を動かさない重度障害者が視線入力装置を使って操作することも可能です。

A L S 患者の船後（ふなご）靖彦参議院議員が意思表示のために国会での使用を要望しているロボットがこのオリヒメです。

また最近では、障害のある人がロボットを遠隔操作して接客する「分身ロボットカフェ」が東京で開催され、その際にも「分身ロボットカフェ」と一緒にこのオリヒメも使用されました。

このように障害のある人にとっては、使い次第でもう一つの身体となり、一人ひとりの可能性が広がるオリヒメですが、障害のある人だけでなく、様々な事情で学校に行くことが困難な生徒のため、学校現場で導入されたり、働き方改革の一つとして企業での導入も進んでいます。

私も重度障害者の一人として、このオリヒメの可能性に期待を持っており、現在オリヒメをお試してレンタルし、私の分身として何ができるかの検証を行っています。

このレンタル期間中に、議場においてのオリヒメの可能性を検証させていただきたく、委員の皆様には議場でのオリヒメの使用許可をいただきたいと思っております。

具体的にこのオリヒメは、遠隔から「話す」「聞く」「見る」「動かす」ができますが、今回は議場の自席において「相手の声が聞こえるか」と「相手の顔が見えるか」の2点を試させていただきたいと思っております。

以上簡単な説明となりましたが、委員の皆様には持ち込み許可いただきますよう、よろしく願いいたします。